

作家 六代

三遊亭 圓窓



「豊島区の噺はこれだけ」

一般的に文字を読むことは生活の中にごく自然に溶け込んでいくのだが、書くとなると、なにぶん忙しくて「筆不精なもので」などと遠ざけられることも多くなる。ましてや、本の制作となると、手を出す者も少ない。ところが、あつしは三十五年前から稽古する噺をワープロやPCに打ち込んできているので、それらを改めて検討、整理、編集して小冊子に作成したものを圓窓高座本と命名して、去年「三三十一」号を超えてしまった。その中に入れたかったのだが、残念ながら我が豊島区を舞台にした古典噺は一つもない。そこで、あつしの創作した五十六席の中に入れたのが、雑司が谷を舞台にし

と しょ かん っう しん 書 館 通 信

トピックス

- 巻頭言 噺家 六代 三遊亭 圓窓... 1ページ
●古い本、新しい話 尾崎 真理子... 1ページ
●図書館と私 池袋図書館奉仕員(司書) 小窪 奈実... 2ページ
●生涯の一冊 豊島区親子読書連絡会 会長 小林 和子... 2ページ
●この本カフェ... 2ページ
●東京図書館制覇! 竹内 庸子... 3ページ
●地域研究ゼミナール受講生募集... 3ページ
●図書館イベント情報・図書館カレンダー... 4ページ



発行 ●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五一一
ライズリーナビル四階・五階 〒170-8442
電話 ●03-3983-7861
FAX ●03-3983-9904
ホームページ http://www.library.toshima.tokyo.jp/
発行日 ●平成27年1月

た「鬼子母神」数中の「妻」。「鬼子母神の近くの敷の中に蕎麦屋があった」という数少ない資料をもとに、女の子とおじさんを登場させて壊れたスキのミズスクを修理するという人情噺に創り上げてみた。鬼子母神門前の料亭の広間を借り切って口演したこともあつしが、まだ我が弟子からは「教えてください」という声を聞かない。この先も聞くことはないだろう。(笑)
ところが、圓窓落語指南所に通う三流亭流(りゅうざ)有難亭南夢明(なんみょう)の二人が「豊島区外の者ですが、演らせてください」と言ってきた。真剣に稽古して見事に口演してくれた。

新航路[33]

「読書活動に関する実態調査」にご協力いただきありがとうございました

あつしのおめでとうございませう! 利用者の皆さまには年末からの全館休館でご迷惑をおかけしています。今号から、区民の皆さまに参加していただいで実施する新企画「この本カフェ」が始まります。どのような図書が紹介されるのか楽しみです。よろしければご感想を寄せてください。さて、昨年6月「読書活動に関する実態調査」を実施しました。今回は、その結果から少しご報告をいたします。

Table with 5 columns: 調査回収人数, 小学生, 中学生, 高校生, 区民. Rows include 有効回答率, 読書が「好き・どちらかというが好き», 1日平均読書時間, 月平均読書冊数.

1日平均読書時間と月平均読書冊数は学年が進むに連れて少なくなりますが、今回の調査では、本の中にマンガや雑誌も含めましたが、月平均読書冊数の中に占めるマンガの割合は、学年が進むに連れて大きくなっています。読書習慣の中にマンガが定着していることがうかがえます。読書が好きになった時期は、中学生は「小学校高学年の頃から」、高校生では「小学校低学年の頃から」が最も多く、そのきっかけは「家に本があったこと」が最多です。読書習慣には子どものころの環境づくりが大きいよう参考になります。この調査では、図書館サービスの認知度と満足度も尋ねました。そのうち中央図書館が平日夜10時まで開館していることは、64.6%の方が「知らない」と答えています。また、自動貸出機があることもほぼ同じ65.7%の方が「知らない」との回答です。一方で、どちらも約7割の方が「利用したい」と答えています。PR方法を考え直さなくてはならないと反省するばかりです。この結果は、今後ホームページでお知らせいたします。

古い本、新しい話 ② 小説を支える場所

尾崎 真理子

小説が好きなら、デビュー前から読み続ける作家が一人か二人はいらるだろう。学生時代の友人のように、その作家はいままで着まわすという錯覚もあるのではないかと多くの人がとって村春樹がそうであるように。保坂和志は前衛であり本格派の、ぐっと渋い一九五六年生まれの作家だが、二十年以上の読者である私には、今も代表作「季節の記憶」の主人公同様、鎌倉の稲村ヶ崎あたりをセーター姿で散策する青年のイメージが強い。小説を読んでいる間は私も、自分の年齢を忘れていた。

氏が野間文芸賞を受賞した『未明の闘争』(二〇一三年)を読み返すと、魅力の鍵は、起点となる「場所」に隠れているような気がしてきた。本作はこんなふうになる。明治通りを雑司ヶ谷の方から北へ池袋に向かって歩いていくと、西武百貨店の手前の「ビックリガード」の五叉路と呼ばれているところで、私は一週間前に死んだ篠島が歩いていた。

昭和15年 東京深川生まれ。昭和34年 都立文京高校を卒業後、八代目柳枝へ入門。柳枝と死別。六代目円窓入門へ。昭和44年 六代三遊亭圓窓を襲名して真打に昇進。昭和48年 「圓窓百篇」を編む。Gスタ。平成12年 小学四年の国語教科書に圓窓の落語「ろくろ」が載る。同時に小学校の教室で落語の授業も開始。平成25年「圓窓高座本三三十一」刊行。

(読売新聞編集委員)



生涯の一冊

書名：『豊島区史 資料編三』
著者：東京都豊島区史編集委員会
発行年：1979年

書名：『としまの村ばなし
—いろはにお江戸38話—』
発行年：2006年1月
発行所：としまらみち草の会



豊島区親子読書連絡会 会長
小林 和子

豊島区親子読書連絡会、としまらみち草の会代表。40年来、子どもと本を結ぶ親子読書活動に携わってきた。最近では、図書館・区民ひろばなどのおはなし会で子どもや高齢者と「本」を楽しんでいる。

『豊島区史 資料編三』

「地域の親子が集まって本を読む、という親子読書活動の中で、日本全国たくさんのお話に出会いました。ふと、では豊島区の昔話は？と考えた私達は、小学生でも読める本がないかと探した。図書館の書棚の奥の方からこんな古びた本を見つけた。『豊島むかしのこと』。でも、毛筆でしかも難しい言葉が並んでいてさっぱり分かりません。そこで、世界中の本と出会ってきた私達は、少し魔法を使えるようになっていたので呪文を唱えてみました。シナバラムノマシート!! (古びた本が、私共が作った「としまの村ばなし いろはにお江戸38話」に変身!)

これは、「としまの村ばなし」収録の話をする時に始めに見てもらおうと手品の口上です。ここで架空の『豊島むかしのこと』に擬えたのが『豊島区史 資料編三』です。昭和54年発行の1冊です。区史は昭和47年に編纂が始まり、平成4年までに通史編四、資料編六、地図編二、年表編一という大部の著作です。図書館の「地域資料」の棚に紺の制服で整列しています。

『資料編三』は近世の記録・日記・編纂物・地誌・随筆類を収録した資料集で、大方は豊島区関連部分の抄録です。豊島区の昔話を探していた私達にとっては宝の山のような本でした。豊島区の親子読書会は草創期から郷土史に関心が高く、それは『豊島区郷土かるた』『同ずくく』『すくくガイド』としま区いぢいちゃん』等に実を結んできました。その制作の過程で子どもたちの昔話の本を希求する思いが膨らんで来た頃、『資料編三』と出会ったのです。爾来15年を超す付き合いになりました。順を追って読み進め、あっ面白い、お話の種になりそう、という記事に付箋を貼っていったら、本の頭に髪の毛が生えたようにぼさぼさになっていました。地誌・随筆類を主として、御成・御鷹狩年表も時代設定に大切な情報でした。

現在は紙芝居に仕立てた昔話を紹介しつつ、背景など解説をする為に通史編二も併せ、再三頁を繰ってはその恩恵に浴しています。(註：呪文を添読め)

図書館と私 22

池袋図書館奉仕員(司書)
小窪 奈美

池袋3丁目の灯

かつて新聞の記事でこんな言葉を目にしました。

「自殺したくなったら、図書館へいこう」
アメリカの図書館に貼られているポスターの言葉だそうです。

もうだめだ、と思うほど困難な問題を抱えるあなた、図書館に来てみてください。あなたの問題を解決する糸口になる本が見つかるかもしれません。そして、司書はあなたをサポートします。——そんなメッセージがこめられているように感じました。

池袋図書館の一般書担当に採用されて3年が経ちますが、日々の選書業務のたびに、このメッセージが頭に思い浮かびます。

働き始めて知ったのですが、豊島区では、とてもきめこまやかな選書をしています。1冊ごとにあらゆる角度からその本を蔵書とすべきか検討します。内容・著者・出版社は信頼できるか。すでに所蔵している同ジャンルの本と比べて情報が更新されているか。

そのジャンルの本の貸出回数から需要の高さを推測したりもします。各地域の利用者の読書傾向、地域の特性なども考慮し、できるだけニーズに沿った本を提供できるように努めています。

ニュース、時事情報にも気を配り、現代社会で起きている諸問題の情報を提供できるように配慮します。また、「今、求められているもの」をキャッチできるように、書店、テレビ、雑誌、インターネットから駅のポスターまでアンテナを張っています。

このように様々な視点から選んだ本を、豊島区の図書館全体で集まって会議を開き、話し合ったのち、購入を決定します。

「この本が、手にした人をほのかでも照らす灯になりますように。」そんな思いで本を選んでいきます。暗がりに行きづまってしまったようなとき、図書館に足を運んでみてください。明りを灯して待っています。

この本カフェ

泣いて、笑って、怒って、考えて…。本を読むそうしたひとときは、自分づくりの時間です。本は、まず読む人のもの。でも、読んだあとにそれについて気軽にしゃべりすることで、本と自分の世界は人

へも周りへも大きく広がっていきます。区民のみならず、自分の好きな本、思い出の一冊など持ち寄って、一緒にしゃべりませんか。本の広場「この本カフェ」。今号から開店です! いらっしゃいませ。本日のメニューは以下の通りです。

「こたつで読みたい本」

書名：『詩のころを読む』(岩波ジュニア新書9) 著者：茨木 のり子
発行所：岩波書店 発行年月：1979年10月

詩人・茨木のり子が私たちの隣にすわり、詩の味わい方を分かりやすく語ってくれる入門書。30年以上も前の本だが、メールやネット上に氾濫する言葉で鈍感になってしまった私たちの感受性を刺激し、ひとつひとつの「言葉」をもっと大切にしないとという気にさせてくれる。私はこの本で、童謡「さっちゃん」の作者としてしか知らなかった阪田寛夫や、若田宏、吉野弘など素敵な詩人たちに会った。コタツから出て、詩と言葉の世界へ出かけたくなる作品だ。【古川 依子】



書名：『冬の龍』(福音館創作童話シリーズ) 著者：藤江 じゅん 画家：GEN
発行所：福音館書店 発行年月：2006年10月

新宿区早稲田・馬場下にある穴八幡神社。話は、その冬至祭の初日から始まります。主人公の寺島シゲルと友人二人を中心に、小学生の彼らを取り巻く大人たちの人生模様を織り交ぜながら、新年までの十日ばかりの日々の間に繰り広げられる冒険と成長の物語です。昔懐かしい下宿屋<九月館>、古本屋と出版社、図書館にお寺と、コタツで読んだあとはすぐに街歩きに出かけたくなります。伏線的に仕掛けられた本に纏わるエピソードも楽しく、本好きには堪らないのですが、本題の龍が引き起こす不思議な話も歴史ロマンに溢れています。【小島 由紀子】

書名『情熱の階段 日本人闘牛士、たった一人の挑戦』 著者：濃野 平
発行所：講談社 発行年月：2012年3月

「闘牛士になりたい!!」 ひたすら夢を追い、カネもコネも語学力もない中で、単身スペインに渡った著者。スペイン人さえ困難な闘牛士への道で、はたして日本人が何処までできるのか。疑問と不安の中で貫いたのは、「諦めない」ということ。どこまでも自分を信じ続けるということだ」という信念だ。ページをめくるたびにほとばしる熱い思いには圧倒される。日本人唯一の現役闘牛士であり、また日本人で初めてノビジェロ・コン・ピカドール(最高位の一步手前)に昇格した男による、魂の体験記である。【古清水 厚】



寄稿者はとしまコミュニティ大学の学習者です。マナビト2年次にはゼミ形式で学んでいます。25年度は本の魅力を伝える短評を書くことを学びました。「この本カフェ」では、受講生がテーマに合わせて、文学、児童書、評論や科学などのジャンルからのお薦め本各1冊を紹介しています。としまコミュニティ大学は、豊島区と区内6大学との包括協定により、協働して事業展開している総合的な学びの場です。

東京図書館制覇!

第4回(最終回)

人気ウェブサイト「東京図書館制覇!」管理人の竹内庸子さんに、図書館の魅力を紹介していただきます。

進化する図書館

「東京図書館制覇!」管理人 竹内 庸子



1971年生まれ。東京23区の区立図書館を全て訪れ、各館の訪問記やさまざまな視点でのランキング・リストをまとめたウェブサイト「東京図書館制覇!」を運営。現在は、訪問範囲を23区から東京全域に広げて、図書館巡りを続行中。

図書館巡りを始めておよそ10年が経ちましたが、特にここ数年、空間としての居心地よさや従来にはなかったイベントの開催など、図書館という「場」を充実させる動きが活発になっているのを感じます。
新設される図書館では、所蔵資料を充実させるだけでなく、それらを読み、活用する場としての機能を考えて設計されることが当たり前になりました。また、あまり図書館を使わない人が来館するきっかけとなるようなユニークな行事や、ふだんは静かに図書館を利用している人たちが交流できるイベントなど、本をきっかけに人が集い楽しめる企画が増えています。



ライブラリーショップ&カフェ日比谷

そんな願いを叶えてくれる図書館が全国で増えています。
都内にも、カフェとレストランが併設されている千代田区立日比谷図書館、公園に面したカフェがある北区立中央図書館、1階の真ん中にカフェを構える武蔵野ブレイスなどがあり、多くの人が図書館でのティータイムを楽しんでいます。



中央図書館のピリオオバトル研修(26年9月)

最近全国で広まっている「ピリオオバトル」というゲームをご存知でしょうか。「バトル」と呼ばれる参加者が5分間で薦め本を紹介し、質疑応答を行った後、参加者皆で一番読みたくなった本に投票し、チャンピオンならぬ「チャンピオン」を決めるといって、本を通じたコミュニケーションゲームです。このゲームは公共図書館でもしばしば開催されており、本の情報を交換し、かつ、本を通じて交流できるイベントとして楽しまれています。
考えてみれば、図書館を利用している人はそれぞれ、これまでに読んだ本の情報を持っている。
豊島区立図書館の登録者は12万人もいるのですが、その利用者の読書体験を集めることができれば、膨大な情報になるはずですよ。私は都内の図書館で開かれるピリオオバトルにできる限り参加しているのですが、存在は知っているけど読む気はなかった本の面白さを教えてもらったり、自分が読んだ本を違う視点で読んだ話を聞いて見方が広がったり、いろいろな刺激を受けています。

また、謎解きイベントのような、一見ただけでは図書館とは関係なさそうなイベントもいくつかの図書館で開催されています。出題された謎を元に指定された棚に行く、特定の資料を示す暗号を解くなどして、ゴール目指して謎を次々と解いていくイベントです。
この説明だけでは、本来の図書館の機能とは関係ないイベントではないかと思う方もいるでしょう。ですが、実際に参加してみると、謎を解く過程であまり読まないジャンルの棚も見ることがになり、こんな本もあるのかという発見があります。それに、図書館の分類記号を使った謎を解くうちに図書館の分類記号に詳しくなり、ふだんの図書館利用に役立ちます。

どんなに図書館を利用している人でも、図書館だけでは本に触れないということはなく、書店や古書店などさまざまな場所で本を手にとるでしょう。そうした「図書館以外の本」に関連する場との連携も見られるようになりました。
千代田区立千代田図書館には、神保町の古書店が持つ貴重な売り物を展示するコーナーがあります。練馬区の大泉図書館・南田中図書館・貫井図書館の3館は、合同で練馬区内の本に関するスポットを紹介するマップを作成して配布しています。

本を楽しむ場を提供する、本を通じて人が交流する、本を通して地域と人を繋げるといった動きは、これからの図書館にますます広がることでしょう。10年後の図書館では、今は思いつかないようなサービスが提供されているかもしれません。こうした変化は、図書館だけが勝手に変わっていくのではなく、利用者ニーズや社会の変化が必ず反映しています。
これから図書館がどう変わっていくのか。それは楽しみでもあるし、いい方向へと進化させるという将来への責任を担っているようにも感じます。これからも図書館が人々の暮らしに欠かせない活用される様子を見続けていきたいと思っています。

地域研究ゼミナール受講生募集

テーマ「学校 — 教育としまの輝き —」全5回

1. 日程

- 第1回 平成27年2月7日(土) 午後2時~4時
「寺子屋から大正自由教育」
講師：伊藤 榮洪 氏(豊島区図書館専門研究員)
豊島区の教育と学校の歴史をお話いただけます。
- 第2回 平成27年2月11日(水・祝) 午後2時~4時
「中心に「食堂」のある学校」
講師：小田 泰夫 氏(学校法人自由学園常任理事)
自由学園明日館の教室で学園の「食と教育」のお話を聞き、館内の見学をします。
- 第3回 平成27年2月21日(土) 午後2時~4時
「昭和の豊島区・特色ある教育(1)吹奏楽部」
講師：新井 純孝 氏(旧第十中学校吹奏楽部「豊島の響」OB)
- 第4回 平成27年2月28日(土) 午後2時~4時
「昭和の豊島区・特色ある教育(2)学校演劇」
講師：岩田 健 氏(元雑司が谷中教諭)、岡田 和義 氏(元道和中教諭)



第5回 平成27年3月6日(金) 午後2時~4時

「教科書の変遷」
東書文庫を見学し、実際に使われていた教科書を見ながら解説していただきます。

2. 会場

- 第1回・第3回・第4回：あうるすぽっと 会議室B(豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階)
- 第2回：自由学園明日館(西池袋2-31-3)
- 第5回：東書文庫(北区栄町48-23)

3. 募集人数

40名(先着順)

4. 参加費

1,000円(その他保険料。交通費は自己負担)

5. 申し込み方法

電話、ファックス、メール、または中央図書館にて直接お申込みください。(定員になり次第締め切ります)
メールアドレス A0027900@city.toshima.lg.jp
メール、FAXの場合は「氏名、住所、電話番号」をご記入の上、お申し込みください。



子どもの読書に関する講習会

「ステップアップ 読み聞かせワークショップ」

～ワークショップを通じて皆さんで読み聞かせの基本を確認しあい、日頃の活動にいかにしていきましょう～

日時 平成27年2月20日(金)
午前10時30分～12時30分
開場 午前10時15分
会場 あうるすぽっと 会議室B
(豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階)
講師 児玉 ひろ美(こだま ひろみ)氏
対象 区内の教育・福祉施設などで、子どもたちに読み聞かせ活動をしている方。
内容 ワークショップを通じて、本の読み方や見せ方などの基本を確認します。
定員 60名(応募者多数の場合は抽選)
参加費 無料
申込方法
往復はがき(①講座名②〒住所③氏名(ふりがな)④電話番号⑤活動先名を記入)で、平成27年1月31日(土)までに必着。
あて先 〒170-8442
豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル5階
豊島区立中央図書館 児童・YAグループ
※返信に〒住所、氏名を記入。

【問い合わせ先】中央図書館 児童・YAグループ
☎03-3933-7861

トークイベント

特別講演会 極地でみつけたことばたち。

—あたたかいことば、そぎおとされたことば、そばにいることば。



講師 村上 祐資 氏(極地建築家)
日程 平成27年3月8日(日)
午後2時から4時
場所 あうるすぽと 会議室B
(東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階)
定員 60名(先着順)
参加費 無料
対象 中学生・高校生向け
(どなたでも参加できます)

限られた時間で、限られた文字数で、どれだけのことを相手に伝えられるのか。極地では「ことば」は命と直接つながっています。極地建設家の村上祐資さんに、南極越冬や模擬火星探索訓練で感じた「ことば」のこわさ、大切さをお話していただきます。南極の広大な自然と、その中で生きる動物のお話も、写真と合わせてご覧ください。

申込方法 次のいずれかの方法で、定員になり次第締め切ります。
・電話(午前10時から午後5時まで)
☎03-3983-7861
・FAX 03-3983-9904
・メール A0027900@city.toshima.lg.jp
・来館(平日午前10時から午後8時まで、土日祝午後5時まで)
※メール・FAXの場合は「氏名、住所、電話番号」をご記入の上、お申し込みください。
受付開始1月11日～

【問い合わせ先】中央図書館企画調整グループ(☎03-3983-7861)

★中央図書館も丸ごと南極に。写真展(1月中旬～3月下旬)開催!

図書館からのお知らせ

図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

- 中央図書館 3983-7861 目白図書館 3950-7121
巣鴨図書館 休館中 千早図書館 3955-8361
上池袋図書館 3940-1779 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335
池袋図書館 3985-7981

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいな。

Table with columns for venue, date, and event details. Includes events like 'おはなし会開催日' and 'スペシャルイベント'.

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

工事に伴う休館のお知らせ

駒込図書館と千早図書館の工事に伴う休館と臨時窓口開設期間をお知らせします。ご利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

駒込図書館 老朽化に伴う大規模改修工事のため
休館期間
平成27年3月12日(木)～平成28年4月上旬(予定)
臨時窓口
開設日 平成27年3月12日(木)～平成27年3月25日(水)
開設時間は通常の開館日と同じです(火曜休館)

千早図書館 耐震補強・トイレ改修等工事および自動貸出システム導入のため
休館期間
平成27年4月7日(火)～平成27年8月(予定)
臨時窓口
開設日 平成27年4月8日(水)～平成27年4月20日(月)
開設時間は通常の開館日と同じです(火曜休館)

休館期間中は、各図書館の所蔵資料の貸出はできませんのでご注意ください。臨時窓口で行う業務は、予約資料の貸出、貸出資料の返却です。

Calendar for libraries: 中央図書館, 池袋・目白図書館, 駒込(※)・上池袋・千早図書館, 雑司が谷図書貸出コーナー. Includes dates and days of the week.

編集後記

年が新しくなると、何か新しいことを始めたくくなりますね。今年は革細工に挑戦しようかと考えています。図書館でも新しいイベントや取り組みを検討中です。皆さんと楽しめるような「新しいこと」を作りたいと思います。(辻)

図書館カレンダー